

授業科目

地域作業療法学

【担当教員名】 能村友紀、岩崎テル子、小野敏子		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】 地域リハビリテーションにおける作業療法の理念と役割、多職種協業のあり方を学び、地域に即した作業療法の展開の仕方や各実施拠点別のプログラム作成を可能にする。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】 1. 地域作業療法の理念、役割、システムの概要を述べることができる。 2. 地域作業療法に関わる多職種の役割と作業療法との関わりについて説明できる。 3. 生活障害の捉えかた、生活の構造的側面について述べることができる。 4. 地域作業療法における評価について説明できる。 5. 地域作業療法における指導・援助内容について説明できる。 6. 地域作業療法の実施拠点別の援助内容の違いを述べることができる。 7. 地域における連携とネットワークづくりのあり方について、自分の考えを述べることができる。					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO	
数				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	1 地域作業療法の基盤と背景（地域医療の台頭、地域作業療法の理念と方法）			1	講義、討論、（岩崎）
	2 地域作業療法を支える制度・支援・連携			1	講義（岩崎）
	3 地域リハビリテーション活動とエビデンスEBM（調査、活動評価、EBMの方法）			3, 4	講義（岩崎）
	4 地域作業療法における評価法（生活障害の捉えかた、生活の構造的側面）			4	講義、討論（能村）
	5 地域作業療法におけるおける指導・援助法			5	講義（能村）
	6 作業療法分野別実施拠点別評価・指導・援助法（高齢者、老人保健施設）			6	講義 演習（能村）
	7 作業療法分野別実施拠点別評価・指導・援助法（高齢者、老人保健施設、デイケア）			6	講義、演習（能村）
	8 作業療法分野別実施拠点別評価・指導・援助法（高齢者、訪問作業療法、デイサービス）			6	講義、演習（能村）
	9 作業療法分野別実施拠点別評価・指導・援助法（自立支援法：身体障害児者）			6	講義、演習（能村）
	10 作業療法分野別実施拠点別評価・指導・援助法（自立支援法：身体障害児者）			6	講義、演習（能村）
	11 作業療法分野別実施拠点別評価・指導・援助法（自立支援法：精神障害者）			6	講義、演習（能村）
	12 ケアマネジメントの機能、視点の概略			4	講義、演習（能村）
	13 ケアマネジメントの実態			4, 7	講義、演習（能村）
	14 地域作業療法とネットワークづくり（新潟県の事例）			7	講義、討論（小野）
【使用図書】		＜書名＞		＜著者名＞	＜発行所＞
教科書 （必ず購入する書籍）		小川恵子編：地域作業療法学。医学書院、2005.		＜発行年・価格・その他＞	
参考書		浜村明徳編：地域リハビリテーションプラクシス。医療分化社、2004. 寺山久美子編：（社）日本作業療法士協会・監修：地域作業療法学（OT学全書別巻）。協同医書出版、2005.			
その他の資料		日本作業療法士協会：作業療法マニュアルー老人保健施設と作業療法一。1998. . 浅海奈津美、守口恭子：老年期の作業療法。三輪書店、2003.			
【評価方法】 出席点 10％ レポート点 20％ 期末テスト 70％		【履修上の留意点】 1. 地域ケア体系は激変期にある。情報をネット・新聞・TVから常に収集すること。 2. 保健・医療・福祉は在宅ケアへと大きくシフトしている。具体的な例を自分の実習地 または居住地で調べ、作業療法指導・援助の実態を見学しレポートを提出する。			